

	<p>2024年 2月1日 第160号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://mizumidori2.eco.coocan.jp E-mail : mizumidori@nifty.com 〒174-0063 樹海区前野町5-31-7 瀬田方</p>
-----------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

高齢時代の 自然保護とボランティア

12月23日の活動状況です。トンボ池の枯れ草を刈り、みんなで池の現状を観察しました。傷んだ畔をどのように修理するか、どうしたらラクチンに管理できるが課題です。

この日会員は4名、環境課から2名、赤塚サービスセンターから1名が応援に来てくださり、7名で枯れ草はほぼ除去して、すっきりしました。まだ笹刈が残っていますが、これはまた後日。



いたばし水と緑の会は、エコポリスセンターで開催された環境教育シンポジウムの場で、行政と市民とのパートナーシップにより、身近な自然を取り戻すための活動が提案されたことがきっかけでできた会です。1997年設立、今年で27年になります。会が辿った年数だけ、会員も高齢になりました。会は今後どうなるのか、何がしたいか、何ができるか・・・

世の中を見ると、定年も延長、70代で仕事を続ける人も普通です。仕事、仕事で余裕がなくなり、若い世代は子供の行事やサッカー・野球等々でみんな忙しい。自然保護やボランティアをやっていくヒマがなくなってきたのかもしれない。

行政とのパートナーシップを掲げて始まった活動ですが、行政は担当が変わっていくにつれて、

市民団体とのかわりが希薄になりました。いまでは様々な事業が指定管理者や委託によって実施されているので、行政担当者が現場の市民活動に直に関わることもなくなったようでしたが、昨年あたりから今回のような行政の支援があって、励まされます。

いたばし水と緑の会がこれまで続けてきたのは、活動の現場を持っていたからです。トンボ池とバッタ広場は、私たちが手入れをして維持しています。いやになったからと放り出すわけにはいきませんでした。義務感だけでなく、活動現場がある楽しみは大きいと思います。

いたばし水と緑の会の活動に参加しませんか

いたるところで「高齢化」という文字が目に入ります。私も79歳。何をやるにもものろのろで時間がかかるようになりました。私自身や、身近な人が、年相応に弱くなったり、病気になったり、それぞれ悩みもあります。でもね。

時間があるとふらっと行ってみる。遠くまで出かけなくても、身近に自然に出会える場所があるのは幸せです。私たちの活動現場であるトンボ池とバッタ広場はそういう場所です。

赤塚城址の広い空の下で、葉を落とした木々が目に入る・・・それだけでも清々します。無心に草を刈って、寒くても汗ばむ気持ちよさ。

11月からバッタ広場のササと大きくなった木を切り詰め（写真右）、草が広くなりました。切り詰めた木が春から夏にどのくらい成長するでしょうか。様子を見ていきましょう。



ここでは、生き物たちやその暮らしぶりが観察できます。1月14日には、ササにくっついてたカマキリの卵を紫垣さんを見つけました。チョウチョのさなぎの抜け殻も枝についていました。

そういえば

11月の枝切りと笹刈作業で見つけた2個のカマキリの卵はどうなったかな、と探したら2つともなくなっていました。野鳥もついでに食べますが、なくなった2つの卵は人の仕業です。こういう現場を見るのは悲しいです。

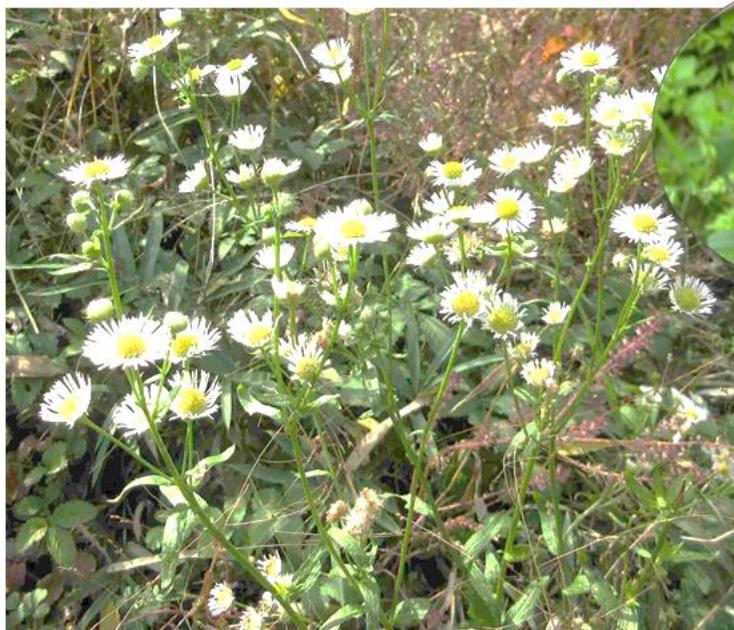
草や木を切って、広々とすると人が入って来ます。「何かいないかなあ」と探します。

「生き物を取らない思いやり」が育ってほしい

子供のころ夏は昆虫採集をして、標本をつくって夏休みの宿題にしました。今「昆虫採集で虫がいなくなる」と言ったら、そんなはずはないと抗議されたお母さんがいました。子供達にも虫取りをさせたいですね。でも林や空き地がなくなり、生き物がすめる場所が少ないという理由だけでなく、地球上の仲間である生き物をいつくしむ心が育ってほしいと願っています。

バッタ広場とトンボ池はビオトープ

バッタ広場(生き物たちが暮らす場所)



写真はありふれた雑草(ヒメジョオン)の花です。その蜜を吸い、花粉を食べに虫が来ます。様々な草木の葉を食べ、汁を吸う虫たちがいます。例えばクズを食べる虫、エノキの葉を食べる虫のように。その虫たちを食べる生き物も来ます。

バッタ広場では、きれいな花やチョウも、好かれぬ虫も、かかわりあって暮らしています。生物多様性を守ろうとしているささやかな空間です。

どのように維持していくか

自然に対して働きかけると、何かを失い、別の何かが生まれます。何もなくても変化していきます。正解はなく、試行錯誤の連続です。

草を刈らず放置すると、草地に住む生き物は少なくなり、ジャングル(藪)になります。ジャングル(藪)にはジャングルの生き物もいると思いますが、ジャングルに潜り込む人のほかは、私たちには見えません。

広々した草地になると・・・何がいるだろうと、子供たちが中に入ってきます。草むらにいるバッタや、テントウムシやクモがいて、捕まえて虫かごに入れて、それから満足して逃がして帰っていきます。ここはこういう場所にしたいと考えてきました。

ありふれた生き物でにぎわう草地にも、珍しいチョウやカミキリムシなどの生き物に出会えると私たちもうれしいですが、虫好きが来て採集していきます。とても残念です。ここはまち中のとても狭い空間です。虫たちの隠れ家になる場所を残しながら、生き物との付き合い方を考える場所として生かしていきたいと思います。

赤塚ため池公園にあるトンボ池



トンボが来て産卵していますが、ヤゴは見つかりません。ヤゴの抜け殻も見当たりません。はがゆいです。



水源は湧き水です。湧き水の「見える化」と、ヤゴやオタマジャクシが暮せる水辺を目標(未達成)に苦労しています。大きな天敵はオタマジャクシを食べるカルガモ、ヤゴを食べるザリガニ。でも水草の自然の水辺にほっとするというファンもいます。

ビオトープ

ビオトープとは、ビオ(bio=生き物)、トープ(tope=場所)、本来、生物が互いにつながりを持ちながら生息している空間を示す言葉だが、特に、開発事業などによって環境の損なわれた土地や都市内の空き地、校庭などに造成された生物の生息・生育環境空間を指して言う場合もある、と書かれています。

トンボ池はかつての赤塚ため池の風景(自然)を取り戻すために住民参加で作った自然の池、バッタ広場はかつてどこにでもあった空き地(草っばら)です。

どちらも、ビオトープ「生き物たちすめる場所」として維持しています。

公園に行くと、子供達が喜ぶ滑り台や砂場などの遊具があり、危なくないように刈り込まれた芝地があり、花壇にはボランティアが育てた草花が咲いています。小さな公園にもソメイヨシノの木があって、近くのお年寄りがお花見をしているのを見かけます。板橋区には小さな公園が多く、子供達や近所のお年寄りがほっとできる場所になっていて、このような小さな公園を定期的に清掃維持されていることをありがたいことと思います。

でも何か物足りないと思いませんか。

前野公園は改修されて運動公園になりとてもにぎわっています。土ぼこりをたてて、子供たちが走り回っています。昨年の夏、エコポリの夏休みエコスクール「セミ博士になろう」ではセミはかるうじて1匹。公園に大きな木が何本もあります、セミが生息する環境ではありません。中規模の公園や学校の片隅に、「ちょっとだけビオトープ」の視点が入るといいのになあと、思います。

バッタ広場とトンボ池にすむ分解者たち

いサイクル屋さんはいらい



バッタ広場とトンボ池には、落ち葉や刈った草、切った枝などを積んで土に戻す「堆肥置き場」があります。会員の世代は堆肥作りの経験がありません。落ち葉を土に戻すことに関心を持ってもらい、この場所の意義を知ってもらうために、トンボ池の奥の積み上げた落ち葉を踏んで見せている私です（写真左上）。毎年、落ち葉と池から掬いあげた落ち葉を山のように積み上げ、踏んで嵩を減らします。毎年積み上げていますが。夏を超すとペッチャンコになります。



写真左中は1997年に矢田さんが刈ったササで作った堆肥置き場です。落ち葉を入れて水をかけてドスドスと踏みつけました。すっかり忘れたころ腐葉土の中にカブトムシの幼虫がいました。



左下は猪鼻さんが2003年に作った堆肥置き場です。トンボ池の大きな木を切った後、枝葉を処分のために作ってもらいました。いつの間にか土になっていました。

こんな芸術作品はできないかな？

刈った草・枝のほったらかしビオトープ？

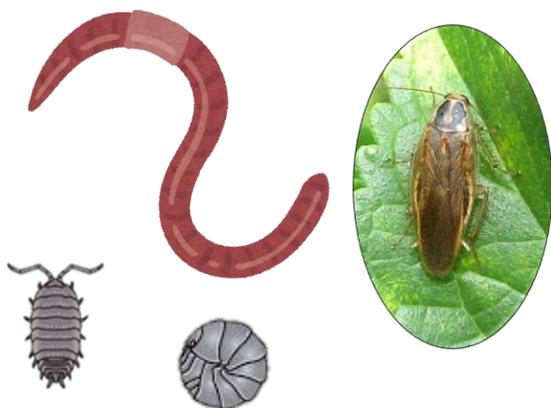


バッタ広場の奥、刈ったササなど積んであります。20年たっても巨大な山になりません。落ち葉が腐葉土になるとカブトムシの幼虫がいたりします。



枯れた枝は別の場所に積んでおきます。枝と枝の隙間をヘビやカナヘビなどの生き物が利用します。枯枝はなかなか腐りませんが、湿った地面側から腐ってきて土になります。ほったらかしですが、ひっくり返したときに、コクワガタの幼虫、越冬中のスズメバチが出てきました。

分解者たちはえらい



ミミズやダンゴムシたちは、落ち葉や生き物の死骸などを食べ、糞はまさに腐葉土。あふれ出るゴミに苦労している人間から見ると、えらいリサイクル屋さんなのです。人間が介入しなければ、彼らだけで安定した自然の世界をつくっているらしい。写真はモリチャバネゴキブリです。トンボ池やバッタ広場の落ち葉の溜まったところにいます。このゴキブリは家庭内には住まず、「名前に「森」と付くが、森林だけでなく草地にも多く見られ、それらの地帯の落ち葉、枯れ草の堆積を棲み処とする。またおもな食物はそれらの枯死植物質」だそうです。

活動の記録



12月30日、トンボ池に流入する湧水が止まり（漏水？）、年明けには池は干上がっていました。

1月17日、周りの笹を刈り、雨が降る前に干上がった池の落ち葉を掻きとりました。

畔がひどく崩れているので、今回は試験的に凹んだところに土嚢を載せることにしました。1月27日、山田さんが池底の土を土嚢袋に入れ畔に並べました。土は雨でやわらかくなっているの、土嚢はぐにやぐにや。清水さんが腐らないプラスチックの土嚢袋をやめ

て、米俵を使う方法を提案されました。確かに米俵に土を詰めて畔にすれば最適。俵の入手も検討し考えましょう。白い土嚢袋は見た目も悪いので、私は上から池底の土を被せたい。植物が土嚢袋に根を張るには時間がかかりそうです。畔の修理は体力がいるので、厄介です。

池の枯れ草を刈っていると、隠れていた虫が出てきます。枯れ草やササは成虫で冬を過ごす虫たちの隠れ家です。余計なことをしてごめんね。出てきたのはクビキリギス、5mm位の小さなクモ、キリギリスの仲間、池に落ちた蛾、枯葉にいた蛾（ヤマノモンキリガ？）など。

11月から、バッタ広場では、ササや木の枝切りをしています。大きくなったササは、安全対策上、地際から切っています。

右はバッタ広場で切った枝をシュロ縄でぐるぐる巻きにして作った粗朶です。木の枝もこうして圧縮すると場所をとらず早く腐ります。シュロ縄がなくてもクズのツルでもできます。バッタ広場の縁（境界）に積んで後は分解者たちに委ねます。

ただ切るだけでなく、後のことを考えて作業するのは面倒です。

狭い場所でビオトープを維持していくために、切った草や枝の後始末も大切だと思います。



活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は 坂本まで 090-4618-1295

1 赤塚城址ビオトープちょっと観察と手入れ（第2日曜日）どなたでも

赤塚城址周辺は自然が豊かなところです。生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら元いたところに返します。ササ刈り等の作業をやります（カマは用意します）。

2月11日（日）10:00～11:30

3月10日（日）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：汚れてもよい靴と服装・作業手袋、あれば図鑑、虫眼鏡など、

2 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ（原則は第4土曜日）

2月17日（土）10:00～11:30 バッタ広場笹刈

（2月24日梅まつりのため日にちを変更）

3月23日（土）10:00～11:30 バッタ広場笹刈等

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

汚れてもよい靴と服装で。作業手袋、

3 日暮台公園と樹林地の観察（第1土曜日） 日暮台公園前集合

2月4日（日）10:00～11:30

3月3日（日）10:00～11:30

4月7日（日）10:00～11:30

4 かんきょう何でも見本市に出展します

日時：2月1日（木）9:00～2月29日（木）12:00

場所：エコポリスセンター地下1階

パネル展示だけですが、水と緑の会の活動を紹介しています。

●ビオトープボランティアの参加を歓迎します。ご意見や自然情報もお寄せください。

ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。不定期ですが区外の自然や保護活動の見学も実施しています。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。